

会議の開催結果について

- 1 会議名 平成21年度 上尾市保育評価審査会
- 2 会議日時 平成22年2月16日(火) 午後1時30分から
- 3 開催場所 全員協議会室(本庁舎議会棟4階)
- 4 会議の議題
 - 1 開会
 - ・委員、事務局の紹介
 - ・会長挨拶
 - ・審査会の開会
 - 【議事】
 - ① 進行管理部会の報告について
 - ② 運営部会の報告について
 - ③ 研修部会の報告について
 - ④ 安全委員会の報告について
 - ⑤ 第三者評価の中間報告について
 - ⑥ 公開保育の実施状況について
 - ⑦ 質疑応答、ご意見等
 - ⑧ その他
 - ・閉会の挨拶
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 非公開の理由 無
- 7 傍聴者数 10人
- 8 問い合わせ先 健康福祉部 子ども家庭課

会 議 録

会議の名称	平成 21 年度 上尾市保育評価審査会	
開催日時	平成 22 年 2 月 16 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分	
開催場所	全員協議会室 (本庁舎議会棟 4 階)	
議長(委員長・会長)氏名	金谷 京子	
出席者(委員)氏名	金谷 京子(会長)、本田 直子、田中 元三郎、西川 正、 千葉 菜々子、前山 かよ子、新井 千代子、佐々木 典子、 遠藤 房子	
欠席者(委員)氏名	久芳 敬裕(副会長)	
事務局(庶務担当)	健康福祉部 子ども家庭課	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	1 開会 ・委員、事務局の紹介 ・会長挨拶 ・審査会の開会 【議事】 ① 進行管理部会、運営部会、研修部会、公開保育 及び安全委員会の結果報告について ② 第三者評価の中間報告について ③ 質疑応答、ご意見等 ④ その他 ・閉会の挨拶	・各部会からの報告事項については、保育評価審査会 で了承されました。
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 10名
会議資料	別紙のとおり	
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 _____</p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
	<p>【資料一覧】 (資料1) 計画進行管理部会報告 (資料2) 保育運営部会報告 (資料3) 研修部会報告 (資料4) 保育所安全委員会のまとめ (資料5) 第三者評価実施報告(中間) (資料6) 公開保育実施結果報告 (当日配布資料) 事故・ヒヤリハット事例集、事故事例の分析</p> <p>1 開会 ・委員の紹介 ・事務局の紹介</p> <p>定員10名中、9名の出席で過半数以上の委員の出席があるため会議が成立</p> <p>(1) 金谷会長あいさつ</p> <p>(2) 議事 ① 会議公開のため、傍聴人10名が入場した。 ② 計画進行管理部会の報告について 資料1に基づき、21年度に検討してきた内容の説明を行った。 ③ 保育運営部会の報告について 資料2に基づき、21年度に検討してきた内容の説明を行った。 ④ 研修部会の報告について 資料3に基づき、21年度に検討してきた内容の説明を行った。 ⑤ 安全委員会の報告について 資料4及び当日配布資料に基づき、21年度に検討してきた内容の説明を行った。 ⑥ 第三者評価の中間報告について 資料5に基づき、21年度に実施した内容の説明を行った。 ⑦ 公開保育の実施状況について 資料6に基づき、21年度に実施した内容の説明を行った。</p> <p>～休憩～</p>

千葉委員	<p>⑧ 質疑応答</p> <p>進行管理部会に関する質疑</p> <p>終結する事業と統合する事業として挙がっているものについて、2ページのI-1-③は場面転換時に動静を確認するという項目であるが、30分ごとに動静把握すると上がっている。また、動静把握と人数把握は違うということも昨年度も話している。そこが違うという認識があって今回終わらせていくということなのか。特に、場面転換というのは、具体的にどのような時に場面が転換した判断しているのか教えてほしい。</p> <p>また、連絡ノートの活用と言うことで、その活用事例を教えてください。例えば食事の欄に「少ない」と書いてきたら、それを保育に展開しているのか。</p> <p>4ページの「保護者満足度調査の実施」について、昨年も話したが、相変わらず行事アンケートを行っているという書き方。保護者満足度を調べるということと、行事の結果がどうだったかと聞くアンケートでは、相当事業として違いがあると思う。私は保護者だが、保護者満足度調査をされているという実感はない。終結していいとは思っていない。</p> <p>他のコミュニケーション関係の課題全般でそうだが、中身やあり方を見直していこうという課題に関して、やっていますという報告が多いので、課題そのものが違っているかと思う。</p> <p>昨年度から新入所の保護者対象入所説明会が始められ、実際に見せていただいたが、ぜひ続けてもらいたい。</p> <p>5ページに「チェックリストによるリスクマネジメントの構築」とあるが、チェックリストで問題が見つかり、具体的に処置したという事例が挙がっているのか。リスクマネジメントの構築だから、このチェックリストが有効に働いていて、問題点がちゃんと見つけられているのか。書いているだけでは終わりにできない。事故事例をみると、リスクが見つけられていないものがあると感じた。</p> <p>7ページの緊急連絡網のことで、連絡網は保護者会で作成しているが、危機対応時を意識して作成されたものではない。</p>
西川委員	<p>そもそも緊急時に保護者会の連絡網を使うことになっているのか。連絡票のことではないか。</p>
千葉委員	<p>統合する事業について、課題としては全く違うものだが、どんなふうに関わっているのか。終結するとして10項目残る。進行管理部会ということなので、計画の実施未実施を確認してきたと思うが、計画自体を実施した結果の評価を見直しした方がいいのではないかと。</p>
金谷会長	<p>7点の質問があったが、関係することがあれば言っていただきたい。</p>
西川委員	<p>何の課題を解決しようとしているのか、それに対してこのやり方は有効であるという説明が反映されているとわかりやすい。</p> <p>裁判でも保護者と保育士のコミュニケーションが全く成り立っていなかったことが厳しく指摘されており、そのことに関して、今こういう形でクリアしようとしていると言ってもらえれば安心できる。</p> <p>職員会議について、別表でケース会議が足りないという話。これは毎年出ているが、保育所で工夫して解決できるのか。昨年もできていないので、保育所では無理なのではないか。</p>

本田委員	<p>園外保育について、安全性が以前と比較して数段高まったと書いているが、なぜそう言えるのか。散歩の回数が多いとれないとあったが、そのこととうまく合わないと思う。</p> <p>5ページのリスクマネジメントについて、ヒヤリ・ハットや事故事例集に、問題点をどうやって解決したかまでが書いていない。どのように解決したのか。</p>
金谷会長	<p>最終するものは、実施要領に移行していくとあったが、どのように反映されるのか。また、移行した場合どのようにチェックしていくのか。回答の際に教えていただきたい。</p>
事務局松原	<p>場面転換時とは、散歩から帰り、保育室に入り、次の作業に移る場面等である。保育士が子ども一人一人の動きを把握するようにしているほか、時間を決めて確認することになっている。</p> <p>連絡ノートの活用について、例えばご飯が少なかった場合は給食を早めをしたり、午前のおやつを多くしたりしている。睡眠時間が少なかった子には午前寝を行うなど、様子を見ながら対応している。保護者の書き込みの中でわかりづらいことは、連絡を取って確認するようにしている。満足度調査については、保育の振り返りとして、アンケートの説明も必要になってくると思われる。</p> <p>チェックリストのリスクマネジメントの構築について、チェックリストは各年齢で細かく設定されたものを、月に一回担任が作成し、不足していることに関しては職員間で連携して確認している。施設名・遊具名もチェックすることになっていて、報告している。</p> <p>実施要領にはチェック項目はありません。今後は年齢別保育検討会を1年間に4回ほど開催しているが、その中で確認作業を行うことになる。</p>
金谷委員長	<p>連絡網の件、園外保育の件、統合する項目の件はどうか緊急連絡網は実際にそう作っているのか。園によって違うのか。</p>
事務局横田	<p>緊急連絡網は保護者に作ってもらっているが、保育所では保護者に連絡票に記入してもらい、それを行事等で保育所から保護者に連絡するときには利用している。また、担任が各クラスの連絡網を作成し、それも利用している。</p>
金谷会長	<p>連絡網と連絡票は違うものか。</p>
事務局横田	<p>連絡網と連絡票は別のものである。</p>
西川委員	<p>緊急時は連絡票を使っているということだが、書いてある文章ではそれがわからない。</p>
事務局松原	<p>緊急連絡先は子どもの名前と保護者の名前と緊急時の連絡先を書いてもらって作成している。</p>
金谷会長	<p>連絡網は保護者が作成し、連絡票は保育所で作成しているということか。</p>
事務局松原	<p>そうだ。</p>

西川委員	この項目は危機発生時についてのものだが、危機発生時に保護者の作成した連絡網は使用しないことになっているということで、そもそも記述が間違いではないか。
金谷会長	緊急時に使っているのが緊急連絡票なら、そこをはっきりわかるようにしてもらいたい。
西川委員	危機発生時についての欄で「保護者会が」と始まること自体がよくわからない。「緊急の時はこのように保護者に伝えています」という意味あいにしてほしい。
金谷会長	園外保育はどうか。
西川委員	園外保育の安全性が数段高まったとあるが、データがあつてのことなのか。散歩時になかなか人数が足りなくて苦労していると保育運営部会の報告にあつたが、そのあたりの事情を教えてください。
事務局武笠	各保育所で調査を行い、その結果をまとめたものがその資料だが、散歩の前にデジタルカメラを使って人数の確認をしたり、カラー帽子をかぶって散歩に出かけるようになったほか、週案でどこに散歩に行くかを報告することで、保育所に残っている職員が、なにかあつたときに対応できるようにしている。
千葉委員	具体的にヒヤリ・ハットが減ったとか、事故が減ったというデータがあるわけではなく、職員が散歩に行く際に、より安心して行っているということか。安全性が高まったということは、安心して行けるようになったということか。
事務局横田	散歩に行く際に年齢ごとの確認を行い、また全体を把握することで安全性を確認している。また、散歩には必ず下見を行い、毎日の朝礼で情報を共有している。 散歩に出ることができなかったのは、4月のことだと思うが、子どもがまだ慣れていなかったり、歩けなかったりする状況を踏まえて保育内容を検討していたものであり、人数が少なく散歩に行けないという状況ではない。
金谷会長	ルールは徹底できるようになってきたということか。ルールは徹底できたが、事故が起こっているかどうかは別問題であるのか。
事務局横田	そうだ。
西川委員	事故報告の中に、原因が下見をしてなかったというものがあつたので、必ずしているといわれると、疑問に思う。質問の主旨としては、職員が前より安心して行けるようになったというなら、それでかまわない。本当は統計で事故が減ったことが分かればいい。具体的にどうすれば事故が減るといふ取り組みの中で、実際にどれくらい減ったか分かれば一番安心できる。散歩については回数も減っていて、後期の中にも出られないという記述があつた。より慎重になって無理には出かけないとしたため、安全性が高まったと受け止めればよいのかと思う。統計で出せることだと思うので、出してほしい。

事務局横田	回数のようなものか。
西川委員	そうだ。
事務局遠藤	事故のことで、遊具の下の方に釘が出ていてそこに引っかかって擦り傷程度のけがをした。すぐ公園緑地課（みどり公園課）に連絡して処理したほか、報告するなどして誰もが安全に利用できるよう対応した。
事務局武笠	事故の発生件数について、安全委員会の事故発生件数の推移という資料に、17年度をピークに数字的にも事故件数は下がっていることが説明できると思う。
金谷会長	園外保育中の事故についての項目なので、その裏付けがあるといふ。職員会議の話が出たので、先に統合する事業項目について聞きたい。
事務局松原	職員会議は先に資料を配布し、会議の時間を有意義にできるように努めている。子どもの育ちや、職員全体で把握しなければいけない子どものことなど、保育所の中で職員が共通認識を持つことはとても大切なことだと思っている。保育方法の項目に統合されるが、職員会議はきちんと行わなければならないと考えている。
金谷会長	職員会議はケース会議と同じではない。
事務局松原	そうだが、職員が全員いるので、その中で話している。欠席した職員のフォローもしている。
金谷会長	ケース会議としては十分ということか。
事務局松原	時間内で終わらないこともあるが、昼を利用するなどして行っている。
金谷会長	田中委員の幼稚園では、ケース会議は行っているのか。
田中委員	行っていない。1カ月ごとに保育の中身を考える事前会議はしっかりと行っている。
本田委員	私の保育所は月1回の会議のほか、必要に応じて、行事ごとの打ち合わせと毎日昼1時半から3時半まで担当ごとの会議をしている。問題発生時はみんなで対応し、記録を残すことで参加できない保育士のフォローを行うなど、共通認識を持つようにしている。
西川委員	判決に出ていたのも、結局職員間の連絡が全然できていないということであった。上尾の事故のことで言うと、事故のあったクラスの状況について、相当しんどい状況になっていたのに、そのことを他の保育士が把握できていなかったのも、子どもがクラスの外に出て行った時に他の保育士が全然気にしていなかったということが指摘されている。調査報告書で指摘されているその内容で、おそらくここが一番肝心な部分だったはず。職員がチームとして動くという中で、それができていなかった、あるいは事故後職員の中では関係が変わったと実感しているのであれば、少し安心できる。しかし、委員会の中でそれを実感できなかった。たとえば、職員の間で意見が割れて、大きな議論になったという話題が

事務局山本	<p>ある位、議論してほしいという期待はある。多くの職員がいる中で意見が割れなければおかしいと思うので、意見が割れない程度の議論しかしていないのであれば、また事故は発生すると思う。質を高めてられているということが分かる材料があればいい。</p> <p>裁判において、保育士と保護者の連携がうまくいっていなかったということが、先日の遺族との話し合いでも出ていた。各保育所では今、事故当時とは全然違う状況で、朝礼は毎朝8時20分から10分間行っているが、その短い時間でも子どもの状況を伝えあい、保育士全員が把握することが大切だと思って行っている。これは子どもの成長だけでなく、家庭における状況についても、子どもに影響してくることなので、担任だけが知っていればいいというものではない。保育所全体の職員がかかわっていくわけなので、みんなで共有している。しかし、なかなか事実を示せと言われても難しいところではある。</p>
金谷会長	<p>事例をあげてもらえれば、伝わりやすいかと思う。</p>
事務局前山	<p>私は今年、2回目の第三者評価を受けたが、職員にかなり周知を徹底しないと第三者評価は受けられないということで、具体的なことで言えば、子どもと話す際の声の大きさであるといった細かいことまで、職員会議のテーマになった。職員会議では職員にかなりきついことも話したし、職員からも返ってきて、保育の見直しを行った。</p>
西川委員	<p>きついことを言われたとは、具体的にどのようなことか。</p>
事務局前山	<p>私が話したのは、保育士が保護者対応において、親子遠足の際に、子ども一人に対して保護者一人になっているが、どうしても仕事で参加できない保護者ともめてしまい、保護者から「事情を理解してもらえないのはどういうことだ」と言われた。原則は親子1対1だが、それができない保護者もいることを理解しなければならないのではないかと議論した。</p>
金谷会長	<p>職員会議でそのようなことを議論したということか。</p>
千葉委員	<p>職員会議とあるが、ケース会議をもっとやってほしいという主旨であると思っている。定期的にやらなくてもいいし、必要がないのにやることもないと思う。ただ、先ほど本田委員が必要な時に集中して行っていると話していたが、それは、必要な時期を園長が判断し、リーダーシップをとってケース会議などを行っているという仕組みだと思っている。例えば今の公立保育所の中で、この問題は大きな問題だから時間をとって話し合おうと、時間を確保して話し合う仕組みになっているのか。それとも、定例の会議しかできない状況なのか。</p>
事務局前山	<p>議題は職員全員で出し合って、副所長が把握し、所長に集約することになっている。職員会議でできなかった時は自主研修ということになっているが、所長が会議を招集することもある。</p>
千葉委員	<p>一番怖いのは、話し合わなければいけない問題がある時に、他の都合を優先して話し合わないことである。どうしたらそのようなことがなくなるか考えてほしい。所長と副所長で会議のプランを考える際に、話し合うタイミングを逃さないようなやり方を検討してほしい。</p>

金谷会長	副所長などに保育士が抱えている問題を訴えられるような状況づくりが必要である。
事務局 佐々木	なにかあったときに話せるように、私のいる保育所では徹底している。小さなことから大きなことまで話すようにしており、それを私もしくは所長が判断している。保護者対応としても、何か意見があったときにすぐに話し合える体制をとっており、誰かが話しているから自分の意見は話さないといったことがないようにしている。また、ケース会議については、気になることを職員会議でも話し合うようにしている。
金谷会長	時間がないので、安全委員会についてはなにかあるか。
千葉委員	<p>事故の事例を分析することのどこがよい点なのかははっきりしてほしい。当然、再発防止のために行うもので、事故が減っていくことが望ましいのだが、別紙のヒヤリ・ハット事例集は、新しいリスクを発見していくという目的の方が大きい。ヒヤリ・ハットは事例を集めていくことがいいことなので、もっとたくさん出してほしい。自分の保育所でヒヤリ・ハットが多いのはあまりよくないことと思って、小さいことは報告しないということがあるのか気になるので、事故を減らしてヒヤリ・ハットを増やす取り組みを行ってほしい。また、事故報告の中で、保育所において当然発生が予想される事故については、受容していくリスクと再発を防止するリスクを判断し、仕分けするようにしてほしい。それをまとめて共有すると状況の判断がしやすいと思う。</p> <p>事例の中にいくつか気になるものがあった。しらこぼと保育所の熱性けいれんについて、職員の失敗や反省点があったのか。特に落ち度がなく、また初めての熱性けいれんで予想もできないことだったので、発生時の対策を話し合えば済むことだと思う。分析・共有する案件を選択する際に、もっと教訓になるようなものを選択するべきである。</p>
事務局山本	これは防ぐことができない事故ではあったが、同様の事例に対する保育所の対応の共通化のために議論することとした事例である。
西川委員	分析の段階で、予防に関することと事故の対応に関することを分けるべきだ。起きた時の対策が万全であったかということだと思うので、予防に関することと事故の対応の両方を含むものであったと理解しておく。
事務局武笠	安全委員会で話し合ったことは、一度保育所に戻し、保育所職員に周知している。そのためにふさわしい事例を検討していることを理解していただきたい。
事務局遠藤	病気について、年齢別に予想できるものを、気をつけるよう周知することと、事故について、何が危険でどのように予防するのかということの分析をしていないのは確かで、きちんと分析をして防ぎえる事故なのかそうでないのかを分けて分析した方がいいと考えている。
千葉委員	分析の欄に状況が書いてあるものが多かったので、状況と要因をまとめた方がいい。また、一つの事故で多くのことを要因として判断するのは欲張りすぎなので、一番大切なことを結論としてまとめた方が再発防止になる。

金谷会長	整理するよというこでよいか。
千葉委員	前にもあったこで、その時決まったこが今回実施されていなかっ たというこなのかについても話し合っしてほしい。
金谷会長	それは安全委員会からしっかりとフィードバックをおこなってもら う。
千葉委員	それには、結論付けてコンパクトにしないとフィードバックしづら いと思う。
金谷会長	保育士一人一人に周知する策を検討っしてほしい。 研修と公開保育、第三者評価についてはどうか。
本田委員	別表の2-3-3の保護者との共同研修については、保育園だけでは 実施は難しい。保護者と話し合うこはこれから非常に大切だと思 う。保護者一人一人を指導するのは大変なこだが、小さなこでも話し 合、小さなこが重なっいい仕事になっと思っので、小さなこを大 切にするには保護者への研修が必要だと思っ。
千葉委員	例えば、保護者は、子どもは転んで怪我するということがあるとい うこを知っおかなければならぬ。
本田委員	子どもは転んで怪我をするのが当たり前という認識ではなくて、その ために保育所では、このような遊びや運動をさせるといったルール決 めを行っているこを研修の中に取り入れて話し合えば、親との距離が縮 まると思っ。
金谷会長	たとえば安全面で言っても、子どもへの教育でもあるからそれを一緒 に研修するのもよいと思っ。
本田委員	交通安全教室を行っても、子どもや子育て支援の方だけが対象になっ てしまっ、保護者には別にやっている。それを一緒に行いたい。
金谷会長	共同研修を行っよいうこでよいか。
千葉委員	声はかけてもらっている。
田中委員	公立では異動があること、近年新人の採用が少ないこで、ヒヤ リ・ハットや事例について、経験年数や同じ保育所での勤務年数とい ったキャリアによっ判断に差が出てくるのではないか。新人が入ってか ら、どのような指導を受け一人前の保育士に育っていくかとい うこについても、リードする職員がいなければ育っにくい部分もあ ったと思っ。また、3年ほどで異動する際、どのようにフォローして いくかとい うのが難しいのではないか。私立であれば、異動がないので何年か 在籍すれば施設や保育についての知識を得られるが、異動すると 新しい施設において共通の認識の作り方が難しいのではないか。 私どもの保育所では未満児と以上児の職員をそれぞれ固定して いる。公立ではそうではないので、0歳担任が翌年に4歳担任を指 示されたとき、0歳と4歳とではけがの内容や頻度のほか、遊びや場 面転換も異な

	るので、もう少しそのことを踏まえた研修を行った方がよいと思う。
金谷会長	それはシステムとしてどのようになっているか。
事務局山本	保育士として採用された場合、比較的年齢の低い二人担任のクラスの担当になるが、最近、経験者の採用枠もあり、その場合一人での担任もある。また、担当の年齢としては、そのまま持ち上がりというのが基本になっている。上尾市では0歳児クラスは看護師が担任になっており、なるべく複数年受け持つようになっている。
田中委員	施設が変わる際の安全性など、弱点もあることを認識してほしい。
金谷会長	そのためのコミュニケーションの研修をぜひ行ってほしい。
千葉委員	書いておいたり、張っておけば済むようなことについては、手間を省くことも必要だと思う。
金谷会長	第三者評価と公開保育についてはよいか。
千葉委員	園内研修のなかで、保護者とのコミュニケーションの活性化がずっと挙がっているが、これは各園でどのような研修を行っているのか。また、研修目的と内容があっているのか。
事務局横田	土曜日の午前中に時間外利用の児童と参加できる保護者を呼んで、大型絵本で読み聞かせを行った。
金谷会長	コミュニケーション活性化の事例については、あれば挙げていただくということを課題としておく。
千葉委員	ずっと載り続けていることなので、課題なのだと思います。
本田委員	園内研修で、保護者役と保育士役に分かれロールプレイングを行っているほか、外部研修を参考にしている。みんなが同じところで困ったりもしているので把握し合っている。
金谷会長	最後に運営部会についてどうか
西川委員	研修を受けた人の感想など、生の声が聞けるとよい。また、研修部会の課題について、3年～5年で大きく改善しなければいけない課題についてなどについて、具体的に書いてほしい。
金谷会長	保育実施要領にどのように移行・反映していくのか。
事務局松原	これからの話し合いの中で、どのように取り入れていくか検討する。大切な部分をどのように伝えていくかが課題であると思う。
金谷会長	ほかに、全体としてあるか。
千葉委員	今年終結する事業を除くと10項目残るが、実施していることは確認できるが、課題は解決しているかが見えてこない。事故調査報告書の9

金谷会長	<p>つの提言が実現されているのかという視点で、3年間行動計画を実施してきたので、来年度有効性の確認をして、全体を終結させる方向でもよいと思う。新たな課題や残る課題があるのであれば、有効性を絞って取り組んでいくと思う。有効性の評価を行うべき。</p> <p>また、今年度新型インフルエンザが流行し、かなり混乱したが、そのことについて総括を行い今後を活かせればと思う。</p>
西川委員	<p>進行管理表について、各保育士がどう感じているのかというフィードバックをおこなってほしい。</p>
田中委員	<p>現場の保育士がどのような認識を持っているのかアンケートをとればよい。また、別視点として、現場から評価審査会をみるとどうなのかといったことも分かると思う。</p>
金谷会長	<p>満足度の話について、保護者の満足度は卒園の際に決まると思うので、卒園前に保護者に聞く機会があるといい。それが本当の満足度だと思う</p>
千葉委員	<p>それも課題だと思う。行事の際のアンケートや、第三者評価で実施されるアンケートとは質が異なるので、別途実施が必要。結果は園便りなどに掲載してみるとよいのではないかと。</p>
	<p>去年保護者会で行った「保育所で子育てあるあるアンケート」の中で、先生と一緒に子育てをしている感があるかという設問の中で 1 割の方がないと答えている。これはかなり大きいと思うので、参考にしてほしい。</p>
	<p>～閉会～</p>
	<p>健康福祉部長あいさつ</p>
	<p>健康福祉部次長あいさつ</p>